

6月24・27日に東京・有明の東京ビッグサイトで開催された「第19回3D&バーチャリアリティ展（IVR）」（主催：リード エグジビション ジャパン）では、さまざまな機器の展示に混じり、サービス関連のデモも目についた。3D（立体視）と言えは、映像コンテンツ制作分野が多かったが、最近では制作以外の場所にも着々と進出しているようだ。

（杉沼浩司）

★立錐の余地無し
3D&バーチャリアリティ展は、東京ビッグサイトに開催された「第19回3D&バーチャリアリティ展（IVR）」（主催：リード エグジビション ジャパン）では、さまざまな機器の展示に混じり、サービス関連のデモも目についた。3D（立体視）と言えは、映像コンテンツ制作分野が多かったが、最近では制作以外の場所にも着々と進出しているようだ。

3D&バーチャリアリティ展

会場では「第22回設計・製造ソリューション展」「第15回機械要素技術展」「第2回Xディカルテク」を併催。来場者は、各展示会を自由に行き来できる。1（仮称）を出展した。同社は、従来B2B型の事業を行ってきたが、B2C領域への展開を模索しており、その1つとして3D関連事業を計画しているという。

「第15回機械要素技術展」「第2回Xディカルテク」を併催。来場者は、各展示会を自由に行き来できる。1（仮称）を出展した。同社は、従来B2B型の事業を行ってきたが、B2C領域への展開を模索しており、その1つとして3D関連事業を計画しているという。

3D関連サービスが拡大

このサービスでは、部屋の3D化を主な利用対象と仮定している。利用者は、現在の居室や引越した先の部屋の写真を、デジタルカメラや携帯電話で撮影し、これを同社のサービスにアップロードする。サービス側では、稜線（りょうせん）を自動的に発見し、ここからデータの3D化を行うとのことである。利用者は、3D化された室内データに家具・家電機器のデータを当てはめ、新しい部屋を仮想体験できる。

同社は、3D化をアプリケーションサービスとして開始するが、今後各業種との連携も視野に入れているという。



サカタインクスの「ARビジネスカード（仮称）」による立体画像（中央の人物）

★AR名刺も
同じサービスでは、同社の「ARビジネスカード（仮称）」も出展されていた。2次元バーコード



原製作所で「出張3次元計測」を担当する但田行基氏

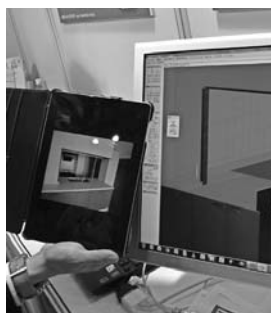
ものは極めて少なかった。ARビジネスカードは、名刺上の2次元バーコード

とて計測を行うことを特徴としており、同社の計測は、リバースエンジニアリングに使用できる高精度なものであり、測定器も定期的に専門機関で較正しているという。

この装置は「動く3Dスキャナー」と考えればよい。3Dスキャナーを動かしながら利用し、部屋全体の形を得るとい

データ作成や計測など実施 多様な業種との連携も視野

ドをタブレットやスマートフォンなどを用いた専用のビューワで見ると、バーコード上にメッセージ映像が浮かび上がるといふものである。



「3Dプランナー（仮）」用のデジタルカメラ画像と3Dデータ化画像

30分程度の精度でデータを取得できる。映像作品として十分な精度で取得できたという。

★出張3次元計測
「3Dスキャンを行い、3Dデータ取得は購入するほどの使用頻度は望めない」という悩みを持つユーザーは意外に多いという。原製作所は、そのような顧客のために、出張3次元計測サービスを実施している。

また同社は光造形サービスも手掛け、取得した3Dデータから実物の形状試作を行っている。いわゆる3Dプリンター装置による製作となる。仮想空間と実空間を結ぶ作業が、1カ所で完結する。

一方、内部形状を含めたデータ化したい場合に、GPSなどの測定手段を用いたAR（拡張現実）は、種々の提案はなされているが、多くが研究目的であり、実用化された

高解像度映像向けボードや 新型キャプチャー装置など

3D&VR展で各社が実演

3D&バーチャリアリティ展には、各社から高解像度向けボードや新型モーションキャプチャー装置などが展示された。

「FirePro」は、1つのポートで最大4画面出力が可能で「ATI Eye finity Technology」機能を搭載するパワフルなハイエンド3D対応モデル。大容量2TBのGDDR5メモリを搭載し、高解像度のコンテンツ制作や大規模データセットを扱うことができる。



エーキューブのブース



ゼロシーセブンのカメラレスモーションキャプチャーのデモ



ナックイメージテクノロジーのMAC 3Dのデモ



ドロイスの映像制作プロダクションのDRAW WIZ（ドロイス）は、自社で制作した3D（立体視）

ヤーなども出展された。エーキューブは、AMC 3Dシステムを演。これまで不可能とされていた屋外での光学式

計測を実現しており、デモは屋外を想定して行われた。キャプチャーカメラに高性能プロセッサを搭載し、高度なマイカー検出アルゴリズムによって屋外キャプチャーが可能にしている。

ドロイス
映像制作プロダクションのDRAW WIZ（ドロイス）は、自社で制作した3D（立体視）